



3月26日 まずだ保育園卒園式

平成23年第2回

## 3月定例会報告

- ◆一般質問と答弁のあらまし ..... 2～7
- ◆委員会・分科会審査 ..... 8～9
- ◆3月定例会概要 ..... 10～11
- ◆1月臨時会概要 ほか ..... 12～13
- ◆市民の声 ほか ..... 14



## 横手市の人口減少と企業誘致について



高橋 勝 義

Show The イガラシ  
パートIII

**問** 地方分権の時代、地方から国を変えようと、自治体の首長が行政改革について行動している。大阪府の橋下知事、名古屋市の河村市長等、全国に自分の考えを発信している。湯沢市の齊藤市長が進める行政改革では単年度6千818万円削減を2010年度から3年間継続する。財政再建を重要課題とする、五十嵐横手市長の舵取りは。

**答** 地方分権の時代であるが、自分たちで出来る事は自分たちで、地方で出来ることは地方で頑張っている。全国で色々な行政改革を強烈に行っている自治体首長もいるが、地道に行っている所である。

**横手市の人口減少と企業誘致について**

**問** 人口減少はその地方の経済の活力がなくなる。横手市は平成22年国勢調査では5千人以上人口が減少した。秋田県も全国一番の人口減少県となってしまった。人口減少は働く人が減って高齢者の年金医療を担う現役世代の負担が

増していく。地域経済の財政力が失われる。学力テストで秋田県の子供は全国一であり優秀な子供の働く場を与えてやる事が行政の役目であり、人口減少をくいとめる良薬でありそのため企業誘致が喫緊の課題である。

**答** 人口減少をくいとめる手立てとして企業誘致はどうしても必要である。トヨタは仙台から北上までで秋田県までは来ていない。製造業は海外移転が進み本県への進出はみられないが、あらゆる機会を活用しPR活動や企業訪問を継続していくことが必要と考える。



人口減少が続く横手市

●その他の質問●  
○地域要望について

## 将来的な市関連施設のあり方は



寿松木 孝

**問** 合併特例後の平成28年度以降の財政が非常に心配される。今後の横手市を考えた時、社会保障関連の予算は増え続けることは明白であり、総体的な経費節減は、あたりまえとして、市の持つ各施設の廃止を含めた大局に立った議論が必要と感ずるが。

**答** 平成23年度には現在の交付水準より30%程度減少すると見込んでいる。個々の施設は、コストの削減を図り利便性を低下させない運営を目指す。行財政改革を推進し、持続可能な財政運営をしていく。

**問** 例えば温泉施設について。

**答** 大きな問題と認識している。23年度にはそれぞれの施設について、市としての方針を示し議論をしていく。

**問** 平鹿有機センターの閉鎖によりその堆肥処理をする大雄堆肥センターの稼働率が上昇し、近隣地域から悪臭に対する苦情が殺到しているが、その対応策は。

**答** 施設稼働時からの悪臭対策で、酵素の増量や畜糞の水分調節などを行ってきたが、根本的な解決に至っていない。

今後は、乳酸菌を利用した対策に加え、一次発酵時には霧を噴霧するなどして悪臭の飛散を防止する対策を取っていく。また、大雄堆肥センターの負荷軽減として、平鹿有機センターの再稼働に向けた施設の改修を検討していく。今後、横手市畜産協議会と連携し畜糞の処理計画について協議をしていく。いずれ、悪臭対策を強化するため県内外の先進施設や専門機関等から指導や助言をいただきながら防止に努めていく。



資源循環型農業を推進する大雄堆肥センター

●その他の質問●  
○横手給食センターの建替えについて  
○生ごみの分別収集について



## 平鹿庁舎に議会機能の移転を

佐藤 清 春

**問** 今冬の豪雪の教訓を今後  
にどう活かすか。高齢化が急  
速に進む中、特定の方々の善  
意に頼るには限界があり、最  
も身近な集落や地域に住む  
人々が、お互いを支えあう仕  
組みづくりが必要ではないか。

**答** 雪下ろし支援事業を含め  
情報提供が十分でなかったと  
の反省から、緊急告知ラジオ  
の配布をはじめ、市民への情  
報提供の充実に取り組み。ま  
た市民生活を守るためには、  
行政の力だけでは不十分であ  
り自治会・町内会における一  
人暮らし高齢者など要援護者  
の見守りや支援の仕組みづく  
りについて検討していきたい。

**問** 本庁機能が集約する横手  
庁舎周辺に、駐車場は十分確  
保されているか。また、駐車  
場問題も含め、横手庁舎での  
三役不在を解消するため、今  
後改築予定の平鹿庁舎に、議  
会機能を移転させることも考  
えられないか。

**答** 市民向け駐車場は、現状  
の駐車スペースを確保し、誘  
導員を配置して効率的運用に  
努めたい。また、横手庁舎に  
三役が不在で、南庁舎で執務

をとることに不便はないが、  
将来的には更なる集約化を進  
め、横手庁舎に三役が入るこ  
とを検討したい。

地域局庁舎は、地域の市民  
が身近に必要な行政サービ  
スを受けられ、地域の活性化に  
結びつく施設である。議場を  
移転することは、現時点では  
考えていない。

**問** 元気の出る地域づくり事  
業に限定し、地元業者への発  
注が可能になれば、地域の産  
業振興につながる、名実とも  
にこの事業の目的にかなう。

**答** まずは現行の入札制度の  
中で対応する。23年度以降の  
事業効果を検証する過程にお  
いて地域局振興枠予算のあり  
方について検討していく。



平鹿庁舎

●その他の質問●  
○行財政改革について

## 豪雪による果樹被害対策について



堀田 賢 逸

**問** 果樹被害の認識は。

**答** 1月の積雪は19.2cmと  
観測史上最高となった。1月  
6日と8日の降雪がしまり雪  
となり被害が増えた。

**問** りんごに関して「横手市  
の位置づけ」は。

**答** 市の販売額は全県販売額  
の77%を占め重要な戦略作物  
と位置づけている。

**問** 「担い手育成」と樹園地の  
環境の保全について。

**答** 県のフロンティア農業研  
修事業の活用で平成3年から  
通算45名が担い手となり現在  
7名が研修中である。

**問** 産地の再生に農家を公募  
するなど思い切った方法は考  
えられないか。

**答** 担い手農家による土地集  
積を図り安心して農地を任せ  
られる環境整備を行う。

**問** 樹園地の環境を守るため  
の農地の跡片付けについて。

**答** 平成23年度実施予定の粉  
炭製造と利用に向けて樹園地  
の被害木を原料に利用できな  
いか検討する。

**問** 樹園地への消雪剤散布を  
全園地に実施できないか。

**答** 初めての無人ヘリで消雪

剤散布を実施した。農家の作  
業軽減のため山手の園地にも  
実施できるか検討する。

**問** カットリンゴ業者を誘致  
できないか。

**答** 製造企業(株)アップルファ  
クトリージャパンの誘致の可  
能性を調査検討する。

**問** 今後の「流・融雪溝」設  
置について。

**答** 取水可能な水源と放流先  
の条件及び勾配などの条件を  
充たしている事、緊急性、費  
用対効果を考え検討する。

**問** 各施設等の音響設備の保  
守点検について。

**答** 大型以外は職員が随時点  
検をしている。今後は利用状  
況を見ながら適性に管理する。



壊滅的な被害を受けた樹園地

## 加工用米の販売と建設工事の落札率について

佐々木 誠



**問** 横手市の今冬の大雪は全国に知れ渡り、企業誘致は今まで以上に困難になったと思われる。この地域の経済発展には農業の頑張りが不可欠だ。産地収益力向上政策に沿った第6次産業を発展させるためにも、生産農家が自分で生産した加工用米を販売できないものか。

**答** 平成22年産米から生産者が自己所有の加工施設においての加工販売が認められた。

加工販売については6月30日までに秋田農政事務所長に取組計画を提出し認定を受けるとともに、販売後の状況報告などの手続きが必要となる。

**問** 手抜き工事や下請会社へのしわ寄せ防止を目的に最低制限価格制度を導入しているが、経費節減努力をしている企業が排除し、落札率の高止まりを誘発しているのではないか。企業努力により少しでも落札率が下がり、工事費が節約できれば、横手市の財政にプラスになると思う。制度の見直しが必要と思うが見解を問う。

**答** 国土交通省などで組織す

る中央公共工事契約制度運用連絡協議会が「中央公契連モデル」とよばれる運用基準を作成しており、全国の自治体で広く採用されている。低価格での落札は工物品質の低下などが心配されるため、横手市でもこのモデルを採用している。特に横手市の最低制限価格等の設定が高いとは思っていない。



食品加工場(十文字道の駅)

- その他の質問
- 水道行政について
- ごみ処理統合施設について

## 雪に強いまちづくりを

土田 百合子



**問** 豪雪被害による果樹農家への生活支援について。

**答** 市では、JA秋田ふるさと、JAおものがわに生活資金融資制度を要請し、両JAと融資制度の内容を検討する。県の営農維持緊急支援資金は、基準金利が2.85%、農家への貸付利息0.5%、差額の利息分は県、市町村、金融機関等が1/4となっている。

0.5%の農家金利負担については、3月4日付けでゼロにすることで今議会に追加提案したい。

**問** 空き家対策に「適性管理条例」を提案したい。

**答** 現在539棟の不在家屋を確認。所有者を確認できない19棟を除き雪下ろしの要請と近隣や道路に被害が出る場合の防御対応を行っている。全ての空き家への対応は困難で63棟に被害が出ている。今後の空き家対策については、条例制定も含め、総合的に検討を進めていく。

**問** 「集落支援員」制度導入の提案について。深刻な過疎化が進む中で住民生活の維持や集落存続への支援のため地域

の「目配り役」として提案する。

**答** 平成23年度に集落支援員2名の配置を予定している。集落支援員の役割は、一つに住民と行政の連絡調整、二つ目は集落巡回と活動報告書の提出。三つ目に住民同士の話し合いの促進などである。モデル的に配置するが、1年間を通じて具体的な活動を検証し、これからの時代に必要とされる形態を考えていきたい。



雪の重みで倒壊した建物

- その他の質問
- 市指定文化財(建築物)の雪害について
- 除雪体制について
- 「ツイッター」による災害時情報発信の活用について



## 豪雪被害を踏まえて、今後の雪対策をどうする

齋藤 光 司

**問** 倒壊住宅の跡始末について、行政の代執行も含む考えはないか。

**答** 半壊、倒壊した空き家については、所有者が処理するよう、粘り強く交渉していくが、現実的に困難な場合は、顧問弁護士と相談し、隣家や近隣の環境保全を含め、進めていく。

**問** 巻き添えとなった隣家等に対する考え方とこれからの対策について伺う。

**答** 3軒の隣家に被害があった。原則として、行政が関与できない民事案件であり、当事者間で協議して頂くよう、説明せざるを得ない。なお、被害に遭われた方からは、以前にも危険であるという情報を寄せられていた。十分な説明を行わなかった事を反省している。

**問** 倒壊住宅は、権利関係も含めて色々な問題がある。その中で空き家周辺の今住んでいる市民を守るという部分で、どう対策をとっていくのか。

**答** 空き家対策は積雪時に限らず、市にとって重要な課題のひとつと捉えている。国と

県に法制度の整備を訴えると共に、総合的な対策を講じられるよう、組織体制を整備した上で、次の降雪期をめどに検討していきたい。

**問** 高齢者対策について、危機管理に対する地域力向上で、今冬の反省を含め具体策は。

**答** 地域の力が著しく減少しており、高齢化社会の厳しさを現実として思い知った。自助・共助・公助のうちの共助の部分をも強固なものにしていかなければならない。自治会長、民生児童委員、福祉協会員、老人クラブなどが相互に連携していく必要がある。その為の支援のあり方を検討していく。



倒壊した空き家

●その他の質問●  
○道路の除排雪について

## 小学生への医療費助成と少子化問題について

高橋 聖 悟

**問** 小学生の入院にかかる医療費の助成は大変ありがたいが、中途半端だ。外来への助成を要望する声も大きい。決断できないものか。

**答** 外来への医療費助成には1億5千万円程が必要なので、厳しい財政の中、見送った。

**問** 財源が厳しいなら、祝い金等の現金支給、数ある市営温泉施設への繰出し金など、精査すべきところがまだ随所にあるのではないか。「少子化になる」、「子育ては社会全体で」という中において、それに財源云々でいいのか。

**答** 小学生の医療費無料化も含め、事業を見直し、財源を精査することが、23年度には必要だと思っている。

**問** 任意の予防接種費用の助成について。

**答** 難しい課題だ。国があてになればよいが、自分のかまどで何とかするしかない。

**問** 医療費、予防接種、子育て支援のための財源確保策として、「こども基金」なるものを創設してみたいかがか。地域局改修のための5億の基金を積めるなら、子供への基

金があってもいいと思うが。

**答** 考え方には賛同するが、財源組替え、振替、捻出を含め、調整が必要だ。こういった財源も23年度の課題だ。

**問** 地域の根幹を揺るがす大きな問題である少子化対策は。

**答** 出生数を増やすというところで、婚姻率を上げるための出会い事業や不妊治療などの第1子出生対策。子育て環境の整備等による第2子以降の出生対策など、県からの交付金を使った事業がある。

**問** 少子化対策は解決を探る間口が広く、この大きな社会問題には各課横断の少子化対策専門課を創り、取り組んでどうか。

**答** そのような体制の構築は、必要と感じている。



子育てのようす

## 雪害支援に市独自策を今示すとき



齊藤 勇

**問** 今冬の大豪雪は、果樹農家に甚大なダメージを与え、その被害はいまだ計り知れない。市は農業雪害対策部を設け、国、県の支援策を示しているものの、市独自の支援策が見えてこない。全国に誇る横手市農業のために、農家の救済支援に対する市長の英断を求める。

**答** 果樹被害軽減策として融雪材の購入費、無人ヘリによる融雪剤散布委託費、園地進入口確保のための除雪費等への助成を実施中であり、今後は、被害樹の後片付け支援、放任園化防止策の実施、出来秋には販売支援等を行い、可能な限りの支援を行う。

**問** 給食センター統合について子ども達の成長の源は食にあるだけに、6千食をまかなう総合施設は、不慮の事故への対応や、配送、食材調達など多くの課題がある。施設的设计や規模、地場産食材の調達等について学校給食運営協議会での協議内容は。

**答** 横手地区の学校統合用地の取得により、その中に給食センターを建設することとし

た。学校統合同事業と共に建設できるため、規模は危機管理や財政運営上の面から適切なものであると考える。地場産食材の調達については、農家が安全な食材を安定納入できる体制を作り、年間を通して学校給食に取入れたいということで協議会に説明している。

**問** TPPについて菅首相が参加、不参加は6月に決めたいと言及した。また、県内20団体の構成で県民会議が立ち上がった。この動きをどう考えるか。

**答** 12月定例会では、政府の対応策が示されていない状況では反対であると答弁したが、今後の政府の対応とTPP拡大交渉の推移を見ながら対応策を検討していきたい。



豪雪により破損したパイプハウス

## 入札制度とごみ処理統合施設整備事業について



小沢 秀宏

**入札制度について**

**問** 公共事業が年々減少する中にある業者間の過当競争が激化し、採算を度外視し、最低制限価格や低入札価格で落札するダンピング受注が年々増加、厳しい競争環境や経営環境に直面している。公共工事の品質確保等の観点から予定価格3千万円以上の指名競争入札で、入札見積価格同額が14件、1円単位まで同額で12社が入札、全社同額など市民の立場からすると不可解な入札と考えるが。

**答** 入札の最低制限価格は事後公表であるが、最近では工事価格を計算するソフトが向上、計算方法もホームページで公開している。最低制限価格に近い同額入札も多く、全国的な傾向ともいえる。23年度から千円単位で切り捨てる方向で検討している。

**ごみ処理統合施設整備事業の進め方について**

**問** 新聞報道によると、中止・再検討・最終候補地決定プロセスについての情報公開等の陳情がなされたと伝えられている。また、建設候補地

の安全・教育・健康に関する検討等の陳情が続いている。説明不足が大きな原因と考えられるので事業をもっと慎重に進めるべきと考えるが。

**答** 昨年9月12日から11月24日までに栄地区の町内会で説明会を開催し、住民との意見交換会がなされた。今年1月20日に栄地区の26町内会長を対象として意見交換会を開催し、今後の進め方等について協議をした。3月から4月に各町内会総会に合わせ、改めて事業に対するご理解をいただけるよう、直接出向いて安全で安心できる施設であることを伝え、ご協力をお願いしながら、ご要望についても伺いたい。



東部環境保全センター



# 地域づくり活動の推進で、支えあいのまちづくりを 立身万千子

## 地域づくり活動の到達点と課題について

**問** 合併後4年間の、地域協議会活動を踏まえて地域づくり協議会が組織され、地域づくり支援課が創設されて1年が経過した。今、原点に立ち返り総合計画に照らして現状分析の重要性を考え、質問する。

**答** 協議会には36の地区協議会が入っており、ソフト・ハード両事業について改善策提案や検証を行っている。

**問** 地域づくり協議会における地区協議会の位置づけは。

**答** 協議会には36の地区協議会が入っており、ソフト・ハード両事業について改善策提案や検証を行っている。

**問** 市職員の在住地域における立ち位置、あり方について。

**答** 職員は公務員である前に地域住民であり、地区担当制への職員の意識改革を目指す。

**問** 市長の考える地域づくりの課題と方向性について。

**答** 側溝整備等のハード部門を「元気の出る地域づくり事業」の予算枠内で一定配分するなどの提案や地域間連携が期待できる内容を充実させる。

**問** 地域ケアシステム、特に認知症をめぐる支えあいの仕組みについて

**答** 社会福祉事業における、

## 横手市社会福祉協議会との連携についてどう考えるか。

**答** 家族介護教室や移送サービスなど市の福祉事業の多くを社会福祉協議会に委託している。各々重複する事業の検証を含め、包括的な協議の場はぜひ必要である。

**問** 多岐にわたる地域支援事業の中で、家族介護者支援のあり方をどう考えるか。

**答** 横手市地域支えあいネットワーク市民集會等で市民とともに各地域づくり協議会の役割を話し合い、地域で支えあう仕組みを作っていきたい。



卸団地へ移転した社会福祉協議会(2F)

●その他の質問●  
○次世代育成支援後期行動計画の進捗状況・特にY<sup>2</sup>ぷらざ内児童センターについて

# 水稻種子温湯消毒でエコ米対策を問う



## 鈴木勝雄

**問** 農業者戸別所得補償について米粉用米の申し込みはどれ位あるのか。また、今年からは転作等について、産地資金となり助成単価は昨年度と変わらないのか伺う。

**答** 米粉用米については昨年52ha、23年は78haであり、転作物等の助成単価は昨年を下回らない単価設定となっている。

**問** 売れる米、売り切る米とすることから種子温湯消毒を導入し農薬を軽減しエコ米として横手市全体を対象に取組みをすることが必要と思うが当局としての対応を伺う。

**答** 農薬を軽減するための水稻種子温湯消毒施設の整備の必要性等についてJ・Aと協議を行い、検討を進めていく。

**問** 産地収益力向上支援については重点作物で品目別に支援内容が違うのはなぜか。また、転作野菜等は連作等から収益性を守るためにも堆肥の投入が必要となる。堆肥投入に対しての支援について伺う。

**答** 枝豆を除いた5品物は、資材の一部を支援している。また、園芸作物の土づくりは

重要なので堆肥散布支援について検討をしていきたい。

**問** ごみ処理統合施設について12月定例会後の周辺住民への対応と、今議会にも陳情が出ているが今後の周辺住民との対策等について伺う。

**答** 1月20日に町内会長を対象とする意見交換会を開催した。今後は各町内会に対しお願いと説明に可能な限り市長が向向き、地元町内会の皆様との話し合いに加わりお願いしていく。

**問** 本庁機能集約後の各地域局の活用について現時点での当局の考えを伺う。

**答** 利活用については各地域協議会に検討をお願いし、具体的協議を行っている。



環境にやさしい米作りの確立を

# 常任委員会・分科会報告(Q&A)

上程（議事日程に組み入れ議題とし、審議の対象とすること）された議案は各常任委員会及び分科会に付託されます。各委員会では、議案について当局より説明を受けるなど慎重に審査されています。

## 産業経済 常任委員会

**Q** 雪害について、補助対象にならないものなどにも、きめ細かな支援が必要と思う  
 がいかがか。

**A** 雪解け後によく話し合いをしながら、できるだけ要望に副うように検討したい。市で予算計上し、その予算の範囲内で、他の要望を吸い上げることができれば、政策会議などの場で経緯を報告しながら運用面で拡大していきたい。

**Q** 若年者自立支援事業の相談員について。

**A** 相談員の募集はハローワークで行う。若者一人ひとりに適切に対応できて、社会に出ることの大切さを教えられる、相当技量のあり、カウンセラー的な人を考えている。

**Q** 森林組合で、役員間の不協和音などが

**Q** 間こえてくるが、把握しているか。

**A** 役員、理事については15名の定員に対して、1月末までに4名の欠員が出ている。理由については森林組合内部の様々な整合性がとれていなかったことや、平成19年度に秋田スギニ力に対し、多額の売掛金が発生し、新執行体制になったが、それに対する不満があったと聞いている。いろいろ懸念されていることは、しっかりと森林組合に伝えたい。

**Q** ものづくり創造支援事業のねらいは。

**A** 製造業に対する国、県のハードルが高いことから、その前段階でなにか支援策はないかという思いで始めた事業である。新製品、新技術の開発奨励、販路拡大の支援など、様々組み合わせ支援していきたい。



雪による果樹の被害状況を視察（平鹿地域）

## 厚生 常任委員会

**Q** 介護施設の建設と給付費や介護保険料の関係について

**A** 施設入所待機者は多く、整備は必要だが小規模特養やショートステイなどの増加に伴い、どれだけの施設整備が必要かアンケートも集約して分析を進めていく。それにより保険料が上がるのが予想される。

**Q** 横手病院の駐車場について。

**A** 解体工事後に整備する予定だが、増築前の患者さん用駐車場台数は、ほぼ確保できる。

**Q** 5歳児健康相談について。

**A** 23年度から全市で年間36回開催する予定。発達障がい児の早期発見を主眼とし、集団遊びや子どもに対する問診等を行い、その結果によって専門機関などへ相談してもらう。保

育士や保健師を始め専門家を交えて対応し、保護者に認識してもらうための気づきの場を提供する。

**Q** ごみ減量化推進の取り組みについて。

**A** ごみの資源化率向上を図る。ビンの収集方法を一本化することで分別の細分化を進めることと、生ごみの減量化の可能性を調査していく。事業系ごみが増加傾向にあり、事業者に対して減量化への取り組みを要請する。

**Q** 駅前公共施設4階における「健康の駅」開設事業について。

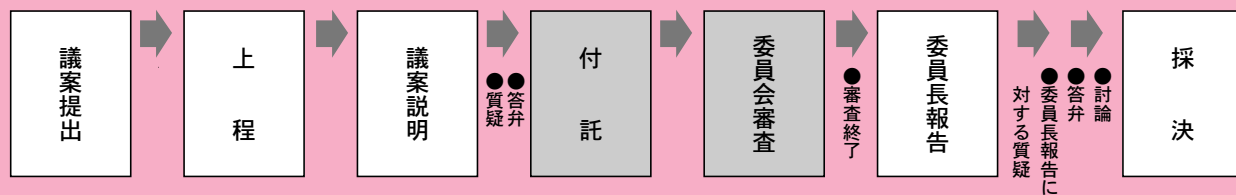
**A** これまでの東部トレーニングセンターに比べ2倍半と広がり、器具の台数も増加する。体の柔軟性をつくる運動を充実させ、市民に健康管理の重要性を認識してもらう。



東部トレーニングセンターが入る横手駅前のY<sup>2</sup>ぶらざ



## ～ 委員会付託の流れ～



### 総務文教 常任委員会

- Q** コミュニティFM放送の災害時の停電の稼動について。
- A** 停電のときは、無停電装置が6時間のバックアップになるので、中継所はそれに対応したい。また、自家発電と移動用の放送設備もあるので併用しながら情報発信したい。
- Q** 横手地区中学校統合事業に関するPTA等への今後の説明について。
- A** この前、各PTA関係及び集落には配置計画、工事の概要について説明したところである。設計が完成したときにはこのような格好になるということをPTA及び集落に説明していく。
- Q** 学校給食センターについて。
- A** 最初に、6千食規模と提案したときに将

- 来は1センターでも可能であることを含めて話したが、国で定めた衛生管理基準では、配送距離、時間はかなり重視しなければいけない。したがって、現有の施設を有効活用し複数のセンターで進めていくことを現時点で判断している。また、6千食のセンターを含めて3センターの提案をしたが、6千食から6千食規模の新センターに大森も含めた4センターで実施した場合など資料提示も含め議論を進めていく。
- Q** 今後の、給食センターの建設について。
- A** 6千食規模の給食センターが今後は最適だという考えで予算計上したが、本委員会の意見を予算執行までに十分に議論を尽くし、再度練ったものを協議の場に提案したい。



震災の地域情報を発信する横手コミュニティFM放送

### 建設 常任委員会

- Q** 横手駅東側に人が集まれる場所や人の流れをつくらんとする事業の成果をどう評価するか。
- A** 居住人口やスーパへの買い物物客なども増えている。今後、来外者数や歩行者数などの調査を行い、事業評価する予定である。
- Q** 水道事業で料金業務を委託する予定だが、そのメリットは。
- A** 「お客様センター」を開設し、平日は午後5時半まで、水曜日は午後8時まで、土日は午前8時半から午後1時半まで受付する予定である。4月分の料金からはコンビニで24時間支払いも可能となる。
- また、委員より下水道整備について、水洗化率の向上は重要な課題だが、計画があるか

- ら事業を進めるのではなく、事業費との関係も含め有効な方法を検討しながら計画を見直すべきだとの意見があった。
- Q** 四日町ポケットパーク※は隣地からの落雪が心配だ。事業の必要性をどう考えるか。
- A** 歴史施設、観光施設を回遊する際の休み場や、お祭りなど多目的に利用できる公共空間を提供しようとするもの。落雪等については所有者と協議して事業を進める。
- また、委員よりスマートIC※調査事業の事業内容について質疑があった。
- ※ポケットパーク 道路整備などによって生まれたスペースを利用した小さな公園です。  
スマートIC(スマートインターチェンジ) 高速道路の本線やパーキングエリア、バスストップ等から乗り降りできるよう設置されたインターチェンジです。



本庁機能集約により上下水道部の移転先となる水道庁舎

# 3月定例会

## 住民生活に光をそそぐ基金条例を始め、今年度の施策・予算を審議

### 3月定例会の経過

3月定例会は、2月28日から3月18日までの19日間の会期で開催されました。

初日、五十嵐市長より、今年度の施政方針の説明があり、総合計画後期基本計画や本庁機能集約化を始め、多岐にわたる主要施策が示されました。つづいて、高橋教育長の教育方針の説明では、学校教育の充実、生涯学習の推進、地域文化の振興、生涯スポーツの振興など4つの視点にたった施策や取組みが示されました。その後、2日にわたり諮問4件・報告11件・承認1件・議案案2件・議案62件が上程されました。議案は、質疑の後、4つの常任委員会と一般会計予算特別委員会に付託され、市議会委員会条例の一部を改正する条例など2件の議案案と平成22年度一般会計補正予算案1件が議決されました。

3月7日からの一般質問では12人が登壇し当局の考えを質しました。9日には、報告1件・議案4件、陳情4件が上程されました。最終日18日には、上程議案について採決が行われました。平成23年度一般会計予算案の審議では、鈴木勝雄議員が反対の立場で討論し、「逼迫した財政の中で、乳幼児医療費無料の年齢枠を入院だけでも拡充した

### ◇平成23年度 当初予算額一覧◇

一般会計	52,150,000千円
特別会計（21会計）	
国民健康保険	11,901,084千円
後期高齢者医療	868,074千円
介護保険	9,358,954千円
その他福祉関係 ・5会計分の合計	2,167,155千円
市営温泉施設	688,153千円
土地区画整理事業	272,947千円
下水道事業	3,154,730千円
集落排水事業	701,005千円
浄化槽市町村整備推進事業	76,297千円
財産区・8会計分の合計	13,066千円
企業会計（2会計）	
病院事業	8,754,127千円
水道事業	4,149,195千円
合計	94,254,787千円

### 条例議案（主なもの）

住民生活に光をそそぐ基金条例  
住民生活にとって大切でありながら、これまでに十分な光が当てられてこなかった分野に対する取組みの強化を図るための基金条例です。

一般職の職員の給与に関する条例の一部改正  
本庁機能集約化に伴い職員の通勤環境が大きく変わることや、自動車等を使用して通勤する職員の通勤手当を改正するものです。

死亡獣畜保冷施設設置条例の一部改正  
死亡獣畜保冷施設の使用料を改正するものです。

国民健康保険条例の一部改正  
暫定的に引き上げられていた出産育児金の支給額を恒久化する等のための改正です。

こと等については歓迎するが、学校給食センター建設事業については、食中毒の発生リスクの増大や材料調達、地産地消等についても問題が残ることや、一般廃棄物処理統合施設整備事業に見られる予算計上のプロセスには市民の不安や疑問に 대응する姿勢が欠如していること、住民の理解が得られない段階での用地取得や設計委託の予算は認められないことなどから、この当初予算案に反対する。」と述べました。採決では、起立採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決されたほか、いずれの議案も原案どおり可決されました。陳情は、市道今宿東3号線改良工事についての1件が採択、残り4件は賛成者少数で不採択となり、定例会を終了しました。

### 市立学校設置条例の一部改正

横手地区の中学校の統合に伴い、統合後の学校を設置し、統合前の中学校を廃止しようとするものです。具体的には、「鳳中学校・横手西中学校・金沢中学校」の部分を「横手北中学校」に改めるものです。

### 入湯税条例の一部改正

災害支援策の一環として被災者等の入湯税の課税免除を行うために改正するものです。

## その他議案（主なもの）

### 土地及び建物権利の取得について

横手駅東口の市街地再開発事業により公共公益施設（横手市交流センターY<sup>2</sup>ぷらざ）の所有権並びに市道を取得するものです。  
8億4千161万5025円

## 予算議案

### 平成22年度予算

#### 一般会計補正予算（第10号）

補正額は2億円で、補正後の予算総額は552億5千662万9千円となりました。

#### 土木費

#### 除雪費

除雪費の追加に伴う補正。

#### 一般会計補正予算（第11号）

補正額は9億5千582万7千円で、補正後の予算総額は562億1千245万6千円となりました。

#### 総務費

### 生活バス路線運行費補助事業

1千27万2千円

県の生活バス路線維持費補助金に係る補助要綱が改正されたことに伴う補正。

#### 民生費

#### 介護施設等緊急整備事業

4千105万円

小規模介護施設等緊急整備費補助金の単価改正と、開設準備経費補助金の施設追加に伴う補正。

#### 国民健康保険特別会計繰出金

5千911万8千円

国民健康保険基金安定負担金等の確定による繰出金の補正。

#### 一般会計補正予算（第12号）

補正額は4億5千万円で、補正後の予算総額は566億6千245万6千円となりました。

#### 農林水産業費

#### 雪害復旧支援対策事業費補助金

4億円

園芸用パイプハウス、水稻育苗ハウス等の農業生産施設復旧事業費や、果樹の補植・被害樹の補修等の樹園地復旧再生事業費に対し助成する県の補助事業費の補正。

#### 果樹等雪害復旧対策事業

5千万円

被害樹補植再生対策としての傷口保護剤購入費への支援などに伴う補正。

### 平成23年度予算

#### 一般会計補正予算（第1号）

補正額は1千833万2千円で、

補正後の予算総額は521億6千833万2千円となりました。

#### 労働費

#### 樹園地等緊急雪害対策事業

1千833万2千円

果樹園等で大雪により折れた枝の撤去や、倒壊した施設・設備の撤去などを、民間への委託雇用により行う経費の補正。

## 特別会計補正予算

### 平成22年度予算

#### 国民健康保険特別会計

4千935万2千円

決算見込みによる給付費増等による補正。

## 企業会計補正予算

### 平成22年度予算

#### 病院事業会計

（※収益的収入及び支出）  
1千813万2千円

（※資本的収入）  
△7千370万円

（※資本的支出）  
△1千500万円

#### 水道事業会計

（収益的収入）  
3千696万3千円

（収益的支出）  
2千151万7千円

（資本的収入）  
△1億6千792万7千円

（資本的支出）  
△1億4千32万4千円

※収益的収入・支出 その期の営業活動にともなう収益とそれに対応する費用。  
資本的収入・支出 施設整備に関する取引など、効果が次期以上に及び将来の収益に対応する支出とその財源となる収入。

## 一般会計予算特別委員会

特別委員会には、平成22年度の補正予算案3件と、平成23年度の一般会計当初予算案、補正予算案の計5件が付託されました。

このうち平成22年度補正予算案1件は3月1日に審査が行われました。また残り4件については、最終日に4つの分科会での詳細な予備審査の報告を受け、本会議に先立ち審査が行われました。

当初予算案には鈴木勝雄委員が、廃棄物処理統合施設整備事業費の中からごみ処理統合施設基本設計業務委託料等を減額する修正案を提出し、「周辺住民の理解を深め話し合いが整うまでは基本設計委託料は必要ない」と提案の趣旨を述べました。これに対し、齋藤光司委員より、「施設の必要性そのものを否定することになりかねないので修正案は認められない」との反対討論がありました。

採決では、修正案が起立少数で否決され、原案が可決すべきものと決定されました。

また、それ以外の一般会計補正予算案については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

## 陳情の審査結果

市民のみなさまなどからの陳情5件が審査され、1件が採択となりました。

### 採 択

◇陳情◇ 市道今宿東3号線改良工事について 小西 廣 [市長へ要請]

### 不採択

- ◇陳情◇ 大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求めることについて 秋田県医療労働組合連合
- ◇陳情◇ 最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援の拡充を求めることについて 秋田県春闘共闘懇談会 ほか
- ◇陳情◇ 労働者派遣法の早期抜本改正と雇用の安定を求めることについて 秋田県春闘共闘懇談会 ほか
- ◇陳情◇ 2011年度年金引き下げの撤回と無年金・低年金者に緊急措置を求めることについて 全日本年金者組合横手支部

## 1月臨時会の概要

◆平成23年第1回1月臨時会は、1月21日に開かれました◆

1月臨時会では、一部事務組合規約の一部変更案件1件と補正予算案件4件が上程され、質疑を経て所管の委員会に付託されました。

市長から一般会計補正予算(第8号)の一部について訂正の申し出があり、採決の結果これを承認しました。訂正の内容は、除雪費を2億円から3億円に訂正するものです。本会議を再開し、各常任委員長及び一般会計予算特別委員長からの審査報告の後、採決では、いずれの議案も原案のとおり可決し閉会しました。

### 議案

- 一般会計補正予算(第8号)
  - 一、地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業(47事業) 5億3千276万5千円
  - 二、除雪費 3億円
  - 三、中学校統合事業など8事業 4億2千34万2千円
- 特別養護老人ホーム特別会計補正予算(第2号) 3千460万1千円
- 下水道事業特別会計補正予算(第3号) 600万千円
- 水道事業会計補正予算(第3号) 2千116万3千円

## 果樹振興議員連盟 活動報告



豪雪による果樹被害を視察

産業経済常任委員会と果樹振興議員連盟三役は2月14日、りんご、ぶどう、ももやさくらんぼなどの樹園地など、豪雪による果樹被害を視察しました。市が設置した農業雪害

対策部では、被害状況の把握と今後の対策について検討していますが、生産意欲の減退を防ぐ目的から、議会も一体になって復旧支援について話し合いを持ったものです。

樹園地により雪の状況に違いはあるものの、春まではまだ遠く、今後どうなるのか自然の猛威を実感させられました。今後は園地の片付け、支柱や腐乱病対策に要する塗布剤購入に對しての市の支援なども必要なのではないかと思えます。

平成22年度  
行政視察  
受入れ  
前年から倍増

行政視察は、議会の常任委員会などが、自分たちの自治体の事業評価や政策課題の解決に向けて、先進的な事例や先駆的な取り組みを現地で調査するものです。

横手市には市議会を通じ、全国の地方議会等から調査・研究のための視察団が訪れています。平成22年度には、北は北海道北広島市から南は沖縄県豊見城市まで、全国56の自治体の議会から、延べ448名が横手市の魅力ある施策を視察しました。

視察件数が10件と最も多かったのは、前年に続き健康の駅推進事業で、次いでB級グルメによる地域振興、食と農からのまちづくり、市立大森病院の経営学力向上の取り組み、事業仕分けなどでした。このほか、学校統合事業、駅東口再開発事業、県との機能合体なども、全国の自治体から注目を集めています。市議会では、これからも市民とともにまちづくりに取り組む横手市を、全国に情報発信してまいります。

## 傍聴者の声



昨年12月6日には金沢小学校6年生児童の皆さんに、また、今年3月1日には十文字第一小学校6年生児童の皆さんに本会議を傍聴していただきました。

両小学校の児童の皆さんから寄せられた感想の一部をご紹介します。

話し合う内容の幅が広く、横手市が日本や世界につながっていることを実感しました。また、わたしたちの暮らしを良くするために市議会はとても大事なところだと思いました。

議員さんは市民一人ひとりの声を大切にし、市民を第一にしたいという考えで、集中力を切らさず、僕が見たことのない迫力で全員に訴えかけていてすごいなと感じました。

身近な話題だけでなく、TPPなど国が関係するような大きなテーマが話し合われていることにとっても驚きました。市議会が問題をどんどん解決してくれるおかげで今

の横手市が成り立っているの、感謝したいと思います。

難しくてもよくわからないところがたくさんありましたが、子ども手当で、障がい者が通う学校、老人ホームなど、私たちに関わることが話し合われていて、自分たちがこうして生活できるのも議会での話し合いのおかげだと思います。

中学生と、ぼくたち小学生の学校給食費や図書費などに対し、たくさんのお金が使われていることに驚きました。それだけ教育は大切にされているのだと実感しました。どんなことでも話し合いがなければ前には進みません。議会を見学して、話し合うことはとても大事なことだと思いました。



議会を傍聴する十文字第一小学校6年生の皆さん

## ……議会を傍聴しませんか……

### ★本会議場で傍聴

横手市議会では、だれでも本会議を傍聴することができます。本会議は通常午前10時から始まります。傍聴を希望される方は、直接、市役所横手庁舎7階の傍聴席においでください。また、団体での傍聴を希望される方は座席の予約ができます。事前に議会事務局までお気軽にご連絡ください。

### ★地域局などでテレビ中継

次の施設では大型テレビでライブ中継をご覧になれます。

- 各地域局
- 平鹿生涯学習センター
- 横手病院
- 大森病院
- あさくら館



### ★インターネット中継がご家庭でも

インターネットが使用できる環境の方はご自宅でもライブ中継、録画中継をご覧になれます。

### ★ご意見・ご要望をお寄せください

市議会では、これからも市民の皆様には議会のようなすべ、よりわかりやすくお伝えできるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお祈りします。

議会へのご意見・ご要望をお待ちしております。

**お問合せ** 横手市議会事務局 電話 0182-32-2535 (直通)  
FAX 0182-32-6539



あまりお金をかけず、市民に負担をかけないように予算を工夫して、いるところがすごいと思いました。ぼくは、これを機会に政治についてもっと興味深く調べていきたいと思っています。

これからの横手市は、どのようにしたらよくなるのかということについてしっかりと意見が述べられていて、とても勉強になりました。議会見学で学んだことをいかしながらこれからの生活でがんばっていききたい。ぼくも将来、みんなのためになったり、みんなに尽くせるような仕事をしていきたいと思っています。

# 市民の声

## 待たれる被害樹の復旧



久米靖穂さん (70歳)  
十文字地域

今年の豪雪は特に1月6日から連続的に降り、1月総積雪量は510cmとなり、昭和49年の積雪量より多かった。加えて毎日真冬日が続いたため「シマリ雪」となり、37年ぶりの「恐雪」となった。この影響で横手地方の果樹、リンゴ、ブドウ園では大きな被害が出ている。リンゴであるが、樹冠雪の雪下ろしがなかなか出来ず、主枝の裂開や折損被害を出した。原因は高齢化と人手の限界で住宅の雪下ろしに比重がかかった事である。2月中旬からは積雪による沈降の結果、枝折れが多く見られている。ブドウは積雪重により支柱折れや、支線が切れる被害が多く、対策はリンゴでは融雪剤を散布し、消雪を早め、主枝の軽めのものにはカスガイ、ボードで処置する必要がある。回復が不能と思われる木は伐採し、苗木を植える対策をとる。横手地方のリンゴ、ブドウは日本一おいしい果実であり、収穫時を楽しみにしている人が多くいるので気持ち強くもって復旧に全力をあげよう。



## 被災されました皆さまへ

このたびの東北地方太平洋沖地震とこれにともなう大津波によって尊い命を失われた多くの方々並びにご遺族の皆さまに深い哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被災地域の日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

秋田県横手市議会

横手市議会では、このたびの地震により被害に遭われた方々を支援するため、秋田魁新報社を通じて義援金をお送りしました。

また、家屋の倒壊など甚大な被害が生じた友好都市の茨城県那珂市にたいしても義援金をお送りしています。



災害義援金を手渡す塩田副議長  
(秋田魁新報社横手支局)

## 会派調査研究報告

◇1月31日～2月2日 新風の会

3名

亜臨界水処理プラントについて  
リサイクルセンター炭生館について  
〔東京都千代田区〕  
〔愛知県田原市〕

## 編集後記

この度の東日本巨大地震で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

今冬は当市において除排雪作業中の事故が相次ぎました。また、樹園地や農業施設、建物などに多くの被害を与えました。豪雪により被災された皆様におかれましては謹んでお見舞い申し上げます。

散々な降雪も一段落し、「これから雪に蹂躪されてしまった樹園地を復興していこう。」「雪との格闘の末に出来た大幅な仕事の遅れをこれから一気に取り戻していこう。」など、市民の中には思いを新たに、それぞれ強い決意と覚悟を持って、春の雪解けを待っていた方も多くいたのではないのでしょうか。

これからという矢先の今般の大地震。数百年に一度の大地震の被害を目の当たりにしてしまつと、数十年に一度の大豪雪があつた事など下手すると忘れてしまひそうです。「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉もありますが、大自然に對し常に謙虚な気持ちを忘れてはならないと今更ながらに強く思いました。(大)

### ◆議会広報委員会◆

- 委員長 土田 百合子
- 副委員長 青山 豊
- 委員 高橋 聖悟・立身万千子
- 鈴木 勝雄・奥山 豊
- 高橋 大・小沢 秀宏
- 塩田 勉